

繊維製品の取扱い表示記号が一部改正されました！

JIS L 0001「繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法」の一部が改正され、2023年に改正された国際規格ISO 3758と整合化が図られました。

2025年8月19日までに新しい記号を使用した表示への移行が必要です。

<主な改正内容4ヶ所>

1 新しい洗濯記号と新しいアイロン記号

・液温30℃の手洗い記号

 記号番号: 111

・底面120℃を限度としたスチームなしのアイロン記号

 記号番号: 511

詳しい記号の意味はJIS原文をcheck
日本産業標準調査会:データベース検索-JIS検索
click



2 各アイロンの温度が10℃上昇し、全てスチームありに

 (現状) 200℃ → (改正後) 210℃

 (現状) 150℃ → (改正後) 160℃

 (現状) 110℃スチームなし → (改正後) 120℃スチームあり

3 記号の微修正

・手洗い記号の手の形状

(現状)  (改正後) 

・禁止を表す「x」の位置が少し上に

(現状)  (改正後) 

4 各ドライクリーニング記号に溶剤を追加

Ⓟ ジプトキシメタン(沸点182.5℃, 引火点62℃)を追加

Ⓣ デカメチルペンタシクロシロキサン(沸点210℃, 引火点77℃)を追加



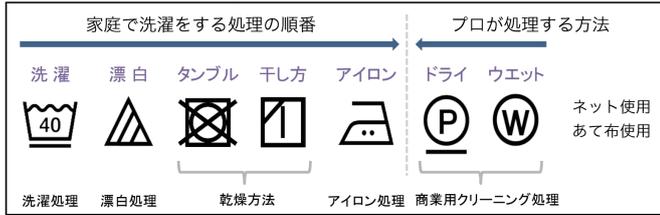
次ページに続く!
次ページは表示記号一覧表を紹介◎



繊維製品の取扱いに関する表示記号

JIS L 0001:2024

参考例：カットソー (T/C) 無地



◆注意点◆

- ・表示は上限表示。
上限とは回復不可能な損傷を起こさない最も厳しい処理・操作。
- ・記号の省略は可能ですが、その場合、省略した記号によって意味している全ての処理が可能となります。

洗濯処理記号 (100番台)

番号	記号	試験方法	記号の意味
140		JIS L1930 C4N	液温は40°Cを限度とし、洗濯機で洗濯できる
141		JIS L1930 C4M	液温は40°Cを限度とし、洗濯機で弱い処理ができる
142		JIS L1930 C4G	液温は40°Cを限度とし、洗濯機で非常に弱い処理ができる
130		JIS L1930 C3N	液温は30°Cを限度とし、洗濯機で洗濯できる
131		JIS L1930 C3M	液温は30°Cを限度とし、洗濯機で弱い処理ができる
132		JIS L1930 C3G	液温は30°Cを限度とし、洗濯機で非常に弱い処理ができる
110		JIS L1930 C4H	液温は40°Cを限度とし、手洗いができる
111		JIS L1930 C3H	液温は30°Cを限度とし、手洗いができる
100		—	家庭での洗濯禁止

漂白処理記号 (200番台)

番号	記号	試験方法	記号の意味
220		JIS L 0856	塩素系および酸素系の漂白剤を使用できる
210		JIS L 0889	酸素系漂白剤の使用はできるが塩素系漂白剤は使用禁止
200		—	塩素系および酸素系漂白剤の使用禁止

乾燥処理記号：タンブル乾燥 (300番台)

番号	記号	試験方法	記号の意味
320		—	タンブル乾燥ができる (排気温度上限80°C)
310		—	低い温度でのタンブル乾燥ができる (排気温度上限60°C)
300		—	タンブル乾燥禁止

乾燥処理記号：自然乾燥 (400番台)

番号	記号	試験方法	記号の意味
440		—	つり干しがよい
445		—	日陰のつり干しがよい
430		—	ぬれつり干しがよい
435		—	日陰のぬれつり干しがよい
420		—	平干しがよい
425		—	日陰の平干しがよい
410		—	ぬれ平干しがよい
415		—	日陰のぬれ平干しがよい

* ぬれ干しとは、洗濯機による脱水や、手でねじり絞りをせずに干すこと

アイロン処理記号 (500番台)

番号	記号	試験方法	記号の意味
530		JIS L 1057準用	底面温度210°Cを限度としてアイロン仕上げができる
520		JIS L 1057準用	底面温度160°Cを限度としてアイロン仕上げができる
510		JIS L 1057準用	底面温度120°Cを限度としてアイロン仕上げができる
511		JIS L 1057準用	底面温度120°Cを限度としてスチームなしでアイロン仕上げができる
500		—	アイロン仕上げ禁止

商業用クリーニング処理記号：ドライクリーニング (600番台)

番号	記号	試験方法	記号の意味
620		JIS L1931-2 P1	パークロロエチレンまたはジブトキシメタンもしくは記号Fの欄に規定の溶剤でドライクリーニングできる (溶剤に2%の水添加)
621		JIS L1931-2 P2	パークロロエチレンまたはジブトキシメタンもしくは記号Fの欄に規定の溶剤でドライクリーニングできる
610		JIS L1931-3 F1	石油系溶剤またはデカメチルペンタシクロシロキサンによるドライクリーニングができる (溶剤に2%の水添加)
611		JIS L1931-3 F2	石油系溶剤またはデカメチルペンタシクロシロキサンによるドライクリーニングができる
600		—	ドライクリーニング禁止

商業用クリーニング処理記号：ウエットクリーニング (700番台)

番号	記号	試験方法	記号の意味
710		JIS L1931-4 W1	ウエットクリーニングができる
711		JIS L1931-4 W2	弱い操作のウエットクリーニングができる
712		JIS L1931-4 W3	非常に弱い操作のウエットクリーニングができる
700		—	ウエットクリーニング禁止

◎ 付記用語の例 区分

区分	付記用語
処理記号と 直接関係する表示	・中性洗剤使用
	・無蛍光洗剤使用
	・洗濯ネット使用
	・単独洗い (分別洗い)
商品の特性情報 デメリット 商品説明 注意表示	・液体酸素系漂白剤使用
	・この商品は光により褪色し易いので長時間光の当たる所での保管は避けてください
	・濃色品は他の物に色移りする恐れがありますので他の物と分けて洗ってください
	・湿った状態や着用中の摩擦により他の物に染移る恐れがありますので着用には注意してください
	・着用中の摩擦や洗濯により毛羽立ちや毛玉 (ピル) が発生する事がありますので取り扱いには注意してください
	・弱く絞る
	・あて布使用
	・プリント部分のアイロン禁止

上記の内容についてご不明な点などございましたら、こちらまでお問い合わせください。

■東京試験センター ☎ 03-5669-1380

■大阪試験センター ☎ 06-6577-0200

X(イクス) @boken1948

試験動画や豆知識など役立つ情報を発信しています！
みなさまのフォローお待ちしております！

